

藤久保地域拠点施設 第6回検討委員会資料

令和2年11月4日
三芳町

1. 配置計画・施設規模・モデルプラン

1. 検討状況のご報告

1. 配置計画

- 資料2の通り様々な観点から比較検討を行い、主に、「仮設校舎の有無、小学校と公共施設の連携、普通教室の採光、グラウンド面積」の観点から、案Ⅲを最有力案とした。
- 北側グラウンドのうち日影の影響を強く受ける範囲については、駐車場利用、ゴムチップ（スポーツコート等）、人工芝などで対応する。

2. 施設規模

- 資料3の通りとりまとめた。

3. モデルプラン

- 普通教室に対して公共施設の日影が落ちる影響を最小限に抑えるため、公共施設を2層（一部3層）とする計画を基本として、現在、複数案を検討中。
- 図書館を中心に据えたプランとする。



2. 第7回検討委員会に向けて

1. 第7回検討委員会の議題

- 第7回検討委員会（次回）では、「公共施設の使い方」についてご意見をいただきたい。
- 特にご意見をいただきたいテーマは以下の通り。

**問題意識：市民活動はその活動に参加する人たちの中に閉じがち・・・
どうしたら活動を開いていけるか。**

テーマ1：様々な機能が複合化するため、いままで関わりの少なかった人たちに対して積極的にアプローチできるようになるが、特にどのような人たちに自分たちの市民活動を知ってもらいたいか。

テーマ2：みなさんの市民活動を発信し、より多くの地域の方に知ってもらい、その活動への参加者を増やすために、藤久保地域拠点施設をどう使いたいか

参考事例①～図書館

【八王子市中央図書館】 手話による図書館利用案内DVD作成

目的	<ul style="list-style-type: none"> 聴覚障害者はコミュニケーションが難しいために施設職員に利用方法など聞くのをためらうことが多いため手話による利用案内動画をDVDで作成。
概要	<ul style="list-style-type: none"> 出演は図書館員と市民の方。本篇は通しで約35分で、様々な場面を説明。 市内の図書館全館でDVDを貸出しているほか、YouTubeとして視聴可能としている。
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 全編手話で説明し、手話が分からない方向けに音声と字幕も付与。 聴覚障害のある市民の方に利用者の役で出演してもらい、市民との協働で作成。 NHK「手話ニュース845」や新聞で取り上げられている。



【東京都立多摩図書館】 特別支援学級での読み聞かせガイドブック作成

目的	<ul style="list-style-type: none"> どの子供も読書の喜びに出会う機会を提供するために、特別支援学校及び特別支援学級での読書の取り組みを支援する読み聞かせのガイドブックを作成。
概要	<ul style="list-style-type: none"> 都立特別支援学校と連携事業として、出張おはなし会や図書館運営の支援を実施 おはなし会などの実践をもとに、読み聞かせの手法、読み聞かせに向く絵本の紹介、読み聞かせる際の留意点を紹介したガイドブックを作成 4,000部発行、都立特別支援学校、都内区市町村の特別支援学級を有する小中学校に配布
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 子供の障害（知的障害・肢体不自由、聴覚障害、視覚障害）に応じて絵本やお話を紹介



出所：文科省資料

参考事例② ～図書館

【大阪市立中央図書館】 書評漫才（SBR）グランプリの取組

目的	<ul style="list-style-type: none"> 「読書離れ」といわれる中高生に、読書に関心を持ってもらい、図書館に来館するきっかけを作るために「お笑いコンテスト」を図書館で開催
概要	<ul style="list-style-type: none"> お笑いコンテストに、本を紹介して競い合うビブリオバトルの要素加味した催しを企画し、「書評漫才（SBR）グランプリ」と名付けて実施。 審査員は、大阪府立上方演芸資料館学芸員、人気作家、地元洋菓子店の広報担当者、公務員漫才コンビ、市立高校校長など。
特徴	<ul style="list-style-type: none"> お固いイメージの図書館で「漫才コンテスト」という意外性もあり、マスコミが好意的に取り上げてくれた。 ホームページやツイッターを積極的に活用 アンケート結果は概ね好評で、出場者、来場者ともに次回開催を希望するものが多かった



【春日市民図書館】 図書館をもっと魅力的なものにするためのワークショップ

目的	<ul style="list-style-type: none"> 図書館活動のサポーターグループの形成と組織化を図り、市民の意向をより反映した図書館運営を実現する。 図書館の運営に対する市民の関心を高める。
概要	<ul style="list-style-type: none"> 「市民図書館をもっと魅力的な場所とするためにどんなことができるか」をテーマとしたワークショップを実施し、その参加者を中心として事業企画サポーターを組織した 成果として閉館後の図書館を活用した「夜の図書館」や、「おとなの一日図書館員」等の市民参加型事業の実施につながった。
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ワークショップを「図書館しゃべり場」と名付け、一般の市民だけでなく図書館職員や市職員なども参加して、自由な意見交換の場とした。



出所：文科省資料

参考事例③～児童館

【仙台市東四郎丸児童館】 チーム東中田っ子（ボランティア育成）

施設	<ul style="list-style-type: none"> 名称：仙台市東四郎丸児童館 設置主体：仙台市 運営主体：NPO法人FOR YOU にここにの家
概要	<ul style="list-style-type: none"> チーム東中田っ子は、東中田地区の3つの小学校の小学生、中学生、高校生の子どものためのボランティアチーム。平成19年「子どものための児童館とNPOとの協働事業」を機に結成され、現在小学3年生から高校2年生までの20名で活動している。 大学の学園祭や児童館での活動報告会など、自分達の活動を広く知ってもらおう機会を設けている。
効果	<ul style="list-style-type: none"> 異年齢の仲間作りの場となっている。 普段関わりがあまりない大学生や福祉施設の方と交流を持つことができ、「人とのつながり」を強く感じられる。 自分達の企画したイベントを実現できた達成感や充実感が更なる意欲へと繋がっている。



【京都市梅津北児童館】 子育て支援の中心施設としての児童館

施設	<ul style="list-style-type: none"> 名称：京都市梅津北児童館 設置主体：京都市 運営主体：公財)京都市児童館学童連盟
概要	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方に児童館について理解を深めてもらえるよう、児童福祉以外の部局とも連携して、有料ゴミ袋の配布や納涼体験など幅広い事業を展開している。 児童館内で放課後児童クラブを実施している。児童館に来館する子どもと放課後児童クラブに在籍する子どもが交流できる。
効果	<ul style="list-style-type: none"> 児童館の利用者層である乳幼児親子が児童館の場所を知る機会となっている。 地域住民を積極的に巻き込むプログラムにより、地域における児童館の認知度の向上に寄与。 児童館に来館する子どもと放課後児童クラブに在籍する子どもの交流促進。

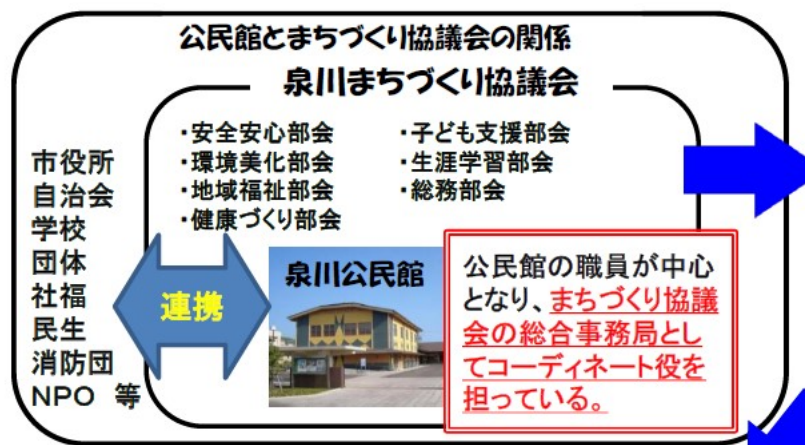


出所：文科省資料

参考事例④～公民館

【新居浜市泉川公民館】 泉川まちづくり協議会

概要	<ul style="list-style-type: none"> 補助金減少、地域の環境悪化、社会教育関係団体の高齢化等により、地域の組織の再構築が必要になったことを契機に、全戸対象アンケート調査を実施し、その結果を分析し、住民による熟議により地域課題を抽出した。 それを踏まえ、地域自ら課題を解決する「地域主導型」のまちづくりを目指し泉川まちづくり協議会を設立 公民館の職員が中心となり、まちづくり協議会の総合事務局としてコーディネート役を担っている。
効果	<ul style="list-style-type: none"> 「自分達の地域は自分達の力で」を皆が口にするようになった。



出所：文科省資料

【延岡市エンクロス】 市民活動を開く取組

概要	<ul style="list-style-type: none"> 閲覧専用の書籍設置・閲覧スペースと市民活動スペースの複合施設。 市民活動に対して無料の貸館サービスを提供しているが、「各団体の活動に毎回、最低一名の新規参加者を入れること」をルールとしている。 市民活動の広報、メンバー構成、取り組み内容について指定管理者が積極的に関与している。
効果	<ul style="list-style-type: none"> 年間120万人の利用者数を達成。 年間約100件のイベント。半数は市民活動のイベント化。半数は指定管理者の自主企画。 多様な価値観が認められ、自己表現ができ、風通しがよく、女性や子どもに優しいまちにつながる。



参考：広報特集、住民意見紹介

1. 広報特集

◆広報みよし 令和2年9月号に特集を掲載（P2～P9）

「みんなのアイデアで未来のランドマーク」と銘打ち、現在の町の検討内容やスケジュール、座談会形式での多世代の意見交換の様子などを掲載。

- ・『未来の公共施設を考える座談会』

藤久保在住の町民4名と町長による藤久保地域拠点整備事業に関する座談会を実施

- ・『アイデアで未来を創造』

本事業への住民意見を広く募集するため、LINEや意見箱による意見募集を告知



(上)特集を掲載した、広報みよし 令和2年9月号
(右)広報に掲載した意見募集記事

こんな意見ってます

新しい藤久保地域拠点施設で...

- ①こんなサービスがほしい！
「子育て・福祉・生涯学習を支援するようなサービスがほしい」「こんなことを叶えたい」など、施設のサービスについての意見。
- ②こんな民間サービスとコラボしてほしい！
「図書館の本をカフェで読みたい」「児童館で習い事をしたい」など、公共施設と民間サービスが融合してできることについての意見。
- ③新しい施設にこんな形で関わりたい！
「様々な世代が集まる施設でこんなことをしたい」「自分たちの活動を生かしたい」など施設と利用者の関わり方についての意見。
- ④その他、夢のある意見！
「こんなものがあたらいいな」「こんなことをやってみよう」など、施設についての自由な発想や夢のある意見。

皆さんの意見をお待ちしています。

多様な媒体で意見募集を実施



(上)意見箱設置の様子・・・中央図書館

(右)意見募集期間中の町公式LINEのメニュー画面



2. 意見募集結果

◆意見募集期間

令和2年9月1日（火）から令和2年9月30日（水）

◆意見箱設置場所 計6か所

庁舎、中央図書館、藤久保公民館、保健センター、藤久保児童館、子育て支援センター

◆募集結果

●意見数（本案件に関する意見のみ）

町公式LINE 65件

意見箱 25件

広報アンケート 13件

●意見種別

施設に関する意見・要望 55件

民間連携に関する意見・要望 31件

その他 18件

※1件の意見に複数の種別内容を含むものが多数あり

3. 意見抜粋

◆施設について

- ・自習、作業、仕事スペース
- ・屋上緑化など、緑地の確保、公園
- ・こども（乳幼児）を連れていける施設、子育て相談
- ・屋内こども広場 ・屋内プール
- ・ワークショップ、DIYスペース（工具貸し出しなど）
- ・交流スペース、コミュニティスペース
- ・広い図書館
- ・バスケット、テニス、ハンドボールなどスポーツコート
- ・中高生が集える施設

◆民間施設について（導入して欲しい民間施設）

- ・こどもと行けるカフェ（キッズカフェ）
- ・飲食店、ファーストフード店、パン屋
- ・地産地消ショップ、カフェ、農業アドバイスコーナー
- ・コンビニ
- ・高齢者や子供向けのカルチャースクール
- ・料理教室
- ・ジム、子供アスレチック
- ・郵便局

◆民間連携について

- ・児童館を民営化し、食事提供や時間を長く
- ・図書館書籍の購入
- ・カルチャースクール講師の小学校授業支援（プログラミング）
- ・学童生徒が民間施設の習い事を利用

◆その他について

- ・建築家によるデザイン
- ・企業支援、チャレンジショップ（レンタル店舗）
- ・避難所機能について（ペットへのケア）
- ・介護補助、リハビリ補助、障がい者へのケア
- ・若い人、若い世帯が移住したくなるような施設
- ・フリーWiFi、施設予約アプリなどICT化対応
- ・交通アクセス、駐車場
- ・子供の一時預かり、高齢者の子供見守り